



おおたに ごう

大谷 剛 教授

大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学
博士(経済学・大阪大学)

専門分野 マクロ経済学、労働経済学、教育経済学

Q1

担当科目を
教えてください。

入門マクロ経済学

マクロ経済学とは、簡単にいうと、一国 (例えば日本)の景気はいいのか悪いのか。景気が悪いとすれば、どうやって景気をよくするのかということを学習する。本講義は、そのようなマクロ経済学の中でも入門編に相当する。

マクロ経済学

マクロ経済学とは、簡単にいうと、一国 (例えば日本)の景気はいいのか悪いのか。景気が悪いとすれば、どうやって景気をよくするのかということを学習する。本講義では、入門マクロ経済学での議論を踏まえ、経済成長論などを学習する。

演習(ゼミナール):

マクロ・ミクロ経済学-ERE受験等を通じた希望進路の実現支援-
大学院進学希望者、公務員(県庁・市役所など)希望者、民間優良企業就職希望者を対象として、希望進路の実現を支援する。詳細については、演習の手引きなどを参照されたい。なお、かなり厳しいゼミナールであることから、参加希望者はその点に留意すること。

Q2

研究のテーマは
何ですか？

実験経済学

経済実験を通じて、経済モデルの現実妥当性などについて検討し、得られた結果より政策的インプリケーションを抽出するという作業を行っている。最近では、ロールズのいうveil of ignoranceに着目し、人々の合理性に係る研究を実施している。

わたしのおすすめ本

海の都の物語

著 者 塩野七生
出版社 新潮文庫

出 版 2009年
ISBN 4101181322

イタリアの都市国家、ヴェネツィアの通史である。とはいえ、学術書という類のものではなく、誰でも気軽に読むことができる。経済学以外にも広く関心を持ってほしい。



Q3

研究者って
どんな仕事ですか？

研究を通じて社会に資するもの。研究を行う際の姿勢としては、先行研究を踏まえつつも常識に捉われない柔軟性が重要と考える。もちろん、学生諸君を厳しい指導により、世間で通用するレベルに育てることも研究者として極めて重要な責務と心得る。

Q&A
先生ってどんな人？

私のちょっとした自慢

指導を通じて、学生の将来を輝かしいものにすることが大好きであること。もはや、趣味といってもよからう。

どのような大学生活でしたか？

自身の問題として、貧困から脱却するためには、どうすればよいのかばかりを考えていた。

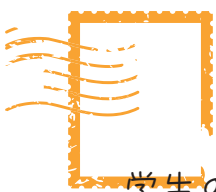
大阪産業大学キャンパスや大学
周辺でおすすめのスポットは？

図書館にある一部のスペースでは、ホワイトボードなどが設置されており、友人たちと議論することが可能。

先生の1枚



昔、学生に撮ってもらった写真なので、現物はより老化している可能性がある。この点には十分留意しつつ観賞すること。100字程度で説明せよと要請されているが、これ以上に述べることはない、などと書いていると分量に達したようである。



学生みなさんへ
ひとこと

大学は勉強するところである。また、4年間の努力次第ではこれまでの人生を大きく好転されることさえ可能である。実際、私が担当する上級キャリアコースでは、猛勉強の末、入学当初は考えもつかなかったような就職・進路を実現した者が多くいる。同コースに関心のある者は、「上級キャリアコース」という言葉で検索することにより、専用HPをご覧頂きたい。そこには、学業成果、就職成果、進学成果などが詳しく述べられている。